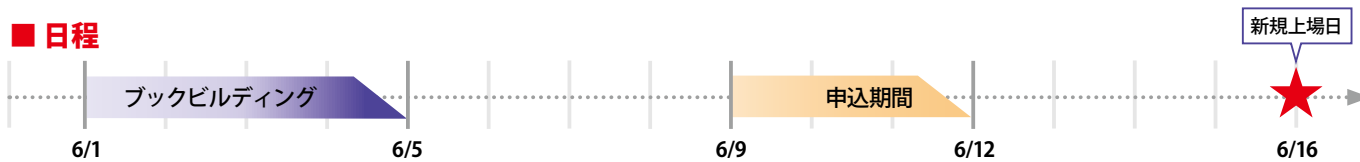


IPO銘柄 スマートバリュー (9417・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
9417	100株	公募: 28.00万株 売出: 6.00万株 (OA5.10万株)	1,500円~1,580円 (9.6倍)	大和証券

■ 日程



自治体向けクラウドソリューションとモバイル事業が両輪

■ 事業内容

自治体向けなどのクラウドソリューション事業とドコモショップ運営のモバイル事業が両輪。クラウドソリューション事業では、都市型データセンターを基盤に特定業種向けサービスの地域情報クラウドをSaaS形態で提供する。クラウドプラットフォームとしては都市型データセンター「おおさかiDC」、大阪府堺市との協業で設置された「S-CUBE iDC」の2つのデータセンターでハウジングサービスを提供。発祥事業でもある車載分野はモビリティ・サービスとして、商用車を活用する法人顧客向けにカー内やドライブレコーダーなど安全運転支援機器の販売、それをベースに運行管理などの機能も付加したテレマティクスサービスの提供などを行っている。モバイル事業では堺市と岸和田市で6店舗を運営。15年6月期第3四半期累計（14年7月～15年3月）の売上高構成比はクラウドソリューション事業が32.8%、モバイル事業が67.2%。

■ 特徴

昭和3年に設立されたバッテリーの製造輸出、電装品販売を行う堺バッテリー工業所が発祥で、その後昭和22年に設立された堺電気製作所が同社の母体となった。現在展開に力を入れているクラウドソリューション事業では、地域情報クラウドとして自治体や公共機関向けに広報、防災、防犯、子育て支援など住民情報分野のクラウドサービスを提供。プラットフォーム「SMART L-Gov」を基盤に自治体ウェブサイトの統合管理やオープンデータ積極活用システム、地域住民向け情報提供アプリなどを手掛けている。15年3月末時点での公的機関との契約数は123件。

アナリストコメント

■ 定量分析

15年6月期の非連結経常利益は前期比35.9%増の2億300万円を予想する。収益規模は小さいものの、育成中のクラウドソリューション事業が順調な推移。モバイル事業はiPhone取り扱い開始によって規模が急拡大した前期に比べて収益力が高まる見込みにある。

■ 定性分析

自治体クラウドに関連したビジネスを手掛け、マイナンバー関連としての切り口が注目される。IPOではMKシステムがマイナンバー関連として初値を大きく上げた経緯がある。また、モビリティ・サービスではM2M関連ビジネスの需要が高まっている。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約6億円。吸収金額が少ない上に発行済株式を経営陣が保有していることから公開株式以外の株券が市場に流通しにくく、需給状況は非常に良好といえる。ヘリオスと同日上場だが初値動向には影響を与えなそうだ。(小泉健太)

■ 類似企業

スマートバリュー(9417・JASDAQ)	予想PER9.6倍 (仮条件上限)
サイバーリンクス(3683・東証2部)	予想PER18.7倍
エムケイシステム(3910・JASDAQ)	予想PER42.5倍

■ 引受証券

大和証券、みずほ証券、岩井コスモ証券、エース証券、マネックス証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
13年6月期(実績)	6,087	141.4 倍	127	黒転	517	黒転	646.8	—
14年6月期(実績)	6,370	4.6	149	17.3	86	▲83.4	108.0	—
15年6月期(会社予想)	6,421	0.8	203	35.9	132	53.9	163.8	25.0

※ 15年2月に株式分割(1株→4株)を実施。13年6月期、14年6月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
13年6月期	200,000	2,698	980	10	1,225.2	36.3	71.7
14年6月期	200,000	2,517	1,067	10	1,334.1	42.4	8.4

※ 13年6月期および14年6月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1 渋谷 一正	348,200	43.53
2 渋谷 順	307,800	38.48
3 SDV	144,000	18.00

経営陣

役職	氏名
代表取締役会長	渋谷 一正
代表取締役社長	渋谷 順
取締役 クラウドソリューションセグメント管掌	竹下 賢治
取締役 経営管理管掌	田中 健作
取締役 モバイルセグメント管掌	田村 靖博
取締役	原 正紀
常任監査役(常勤)	林 克久
監査役	永島 竜貴
監査役	大鹿 博文

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。